

令和4年度 第3回 富田林市交通会議 議事録

主管課：富田林市 道路交通課

日時：令和4年10月19日（水）午後2時～午後4時

会場：富田林市役所4階401会議室

●出席委員 23名

三星委員、柳原委員、酒井委員、中西委員、芝池委員、高平委員、南野委員、西田委員、中村委員、松永委員、塩野委員、秋元委員、山本委員（新規委員）、西谷委員、芝辻委員、豊福委員、中塚委員、松田委員、金銅委員、北村委員、柳田委員、小野委員、辻本委員（新規委員）

●欠席委員 6名

岡部委員、石田委員、池田委員、天堀委員、北野委員、山原委員

●公開・非公開の別 公開

●傍聴人数 3名

●会議次第及び議事要旨

1. 議事

(1) レインボーバスのあり方検討分科会の検討結果について

事務局から資料2に基づき説明し、各委員にて了承された。質疑及び意見等は、議事概要のとおり。

(2) 地域公共交通計画策定における進捗状況について

事務局から資料3、参考資料2に基づき説明し、各委員にて了承された。質疑及び意見等は、議事概要のとおり。

(3) 彼方上地区地域公共交通の実証運行について

事務局から資料4に基づき説明し、各委員にて了承された。質疑及び意見等は、議事概要のとおり。

2. その他

事務局から交通会議次回開催日程（令和4年12月21日（水）午後2時～）、交通会議次々回開催日程（令和5年1月18日（水）午後2時～）を案内した。

●資料

| | |
|-------|---------------------------|
| 資料1 | 委員名簿 |
| 資料2 | レインボーバスのあり方検討分科会の検討結果について |
| 資料3 | 地域公共交通計画策定における進捗状況について |
| 資料4 | 彼方上地区地域公共交通の実証運行について |
| 参考資料1 | 移動に関するアンケート調査の結果について（速報値） |
| 参考資料2 | 地域公共交通の課題及び基本方針等について |

●議事概要

1. 議事

(1) レインボーバスのあり方検討分科会の検討結果について

- 柳原議長 レインボーバスのあり方検討分科会には私も参加させていただき、市民の方々にもたくさんのご意見をいただいた。特にレインボーバスは病院送迎バスや路線バスと輻輳しており、路線を廃止する案などをいただいた。しかし、実際のODデータ等を見ても乗っておられる方もおり、直ちに廃止することは難しいという状況があり、まずは運行形態を変えて様子を見てみてはどうかということから本具申案に至った次第である。本件について交通会議の議題となるのは今回が初めてであるので、ご意見等を伺いたい。
- 西田委員 こちらにまとめられた案が市民の総意であると考え。本案の大きな検討課題は運賃の設定方法であると認識している。
- 松永委員 分科会にて発言させていただいた内容が反映されており、この内容で問題ない考える。
- 三星委員 なるべく市民委員の率直な意見を反映していただきたい。概ね本市の問題点を把握しているが、市民の意見を聞かずに判断することはできない。
- 南野委員 検討案の内容のように運賃が高くなるということに対して、利用者がどのように感じるかということが気になる。
また、分科会の際にも申し上げたかと思うが、レインボーバスを今の固定路線だけでなく、交通不便地域へ回るルート等も検討していただきたい。
- 中村委員 物価が高騰している状況にあり、運賃の値上げは仕方がない考える。一方で、ルートについて、本案では富田林病院前およびケアセンターの停留所のみを削減した案となっており、縮小するのは本当にこれだけいいのかというのが気になる。
- 柳原議長 交通不便地域への対策はレインボーバスとは切り分けて、順次検討していく予定である。
- 金銅委員 分科会にていろいろと検討いただいたとお見受けする。本資料にもあるとおり、後々レインボーバスを廃止するとなると公共交通にてすばるホールへアクセスする手段がなくなることが懸念点である。
- 事務局 すばるホールへはレインボーバス以外の公共交通によるアクセス手段がないため、慎重に議論していく必要がある。今後さらに案を検討する中で、皆様の意見を賜りながら検討していきたい。
- 三星委員 これまでの検討の経緯を考慮すると、富田林病院前とケアセンターの停

留所がなくなるということは妥当であると考えてる。
個人的には病院送迎バスの利用者とレインボーバスの利用者とはどの程度数値的に重なっていたのかを教えていただきたい。

- 事務局 具体的な数値は把握できていない。富田林病院は無料送迎バスを運行しており、富田林市内の多くの方は送迎バスにてアクセス可能であると認識している。当エリアにてレインボーバスを廃止した場合、乗り継ぎが必要になる方がおられる可能性はあるものの、病院利用者の利便性が大きく下がることはないと認識している。
- 柳原議長 OD調査の結果、病院利用のためにレインボーバスを利用している方は少なかったと記憶している。富田林病院では無料送迎バスが運行しているので、レインボーバスを廃止しても大きな問題はないと考える。
- 三星委員 今後は病院送迎を病院利用以外の方にも開放することが現行法の下で可能なのか、あるいはそうすることが良いのか、といった議論も必要となる。
- 柳原議長 あるいは病院送迎を廃止し、路線バスを利用していただくというような議論も、分科会の意見としてあった。
- 三星委員 そうする場合、病院利用者には路線バスの運賃を支払っていただかなくてはいけないということになるのか。
- 柳原議長 PL病院では病院利用者の運賃を病院側で支払って対応しており、路線バスを無料で乗っていただいている。
- 三星委員 富田林病院でもPL病院と同様にするのか、などの議論が今後必要になる。

(2) 地域公共交通計画策定における進捗状況について

- 柳原議長 資料3のp.6にあるように、富田林市の地域公共交通に関する基本的な方針案をご説明いただいた。計画の中では富田林市が今後どうしていくのかというビジョンを掲げる必要があり、今回の交通会議では皆様の共通認識をはかりたいと考える。そのうえで次回以降の交通会議にて具体的に何をするのかを議論できればと考えている。
今回はまず、富田林市の地域公共交通をどうしていくのかについて皆様の意見をいただければと思う。
- 三星委員 これまでの交通会議にて検討してきた内容がこのような形で集約されており大変重要な議論の機会である感じている。そのうえで、私は大きな課題が2つあると認識している。
1つは、今回挙げていただいた課題は計画論における課題である。本来は市民が暮らしの中で何が課題なのか、市民は何に困っているのか、このままの状況が続くと富田林市の地域公共交通はどうなるのか、もっと

リアルな面での課題を検討することが重要であると考え。富田林市に限らず、近年の地域公共交通を取り巻く状況は深刻である。最も重要なことは今の車を中心とした交通環境を変え、皆様に地域公共交通を利用していただくことであるので、より市民の目線に立った課題を設定できればと考える。

もう一つ重要なことは「自動車に頼らない」ということだけでなく、さらに積極的に「自動車がなくても暮らせる社会の実現」である。つまり、現在自動車に乗っている人が喜んで車を手放すことであり、資料中の課題3がとても重要である。富田林市内では、彼方上地区のように実証運行に取り組みられている地域もあるが、車に頼らないだけでなく、より積極的な意味で、現在の自動車の利便性に匹敵するあるいは、自動車を上回る地域公共交通のあり方を検討いただきたい。現状の車に依存した状況では富田林市の発展に対するネックになってくると考えるので、市民の皆様が喜んで自動車を手放せるような策を検討いただきたい。

事務局 ご指摘いただいたとおり、自動車がなくても移動できるということだけでなく、送迎にも頼らなくてもバスや鉄道などの地域公共交通により市民の移動を確保できることが長年の課題である。アンケート調査の結果や今後実施予定の各種調査の結果を踏まえ、より具体的な施策を検討する際にもこの点を重視して考えたい。

三星委員 地域公共交通計画は最終的に市民に提示する必要がある、これまでの議論のような市民のリアルな意見を省略することはできない。交通会議にて示す際にも、もう少し整理した形で分かりやすい資料を示していただきたい。
富田林市に限らず地域の状況は刻々と変化し、車がなければ身動きが取れない状況が生まれている。より市民の目線に立った交通の体系を検討いただきたい。

柳原議長 地域公共交通の課題を検討するには市民の生の声を拾い上げることが重要と考える。先ほど三星委員がおっしゃったとおり、このままの状況が続くとどうなるのかということに対しては、参考資料1のp.5にあるように移動手段において85歳以上の方は4割が家族等の送迎に頼っており、75歳から84歳の方の35%がご自身で車を運転しているという状況を、このまま放置しておいたらどうなるのか、またどのように対応するのか、方針を検討する必要がある。

西田委員 祭りが好きなので、先週の日曜日に金剛バスを利用して河南町まで祭りを見に行った。私のように年齢を重ねると移動手段の選択肢が少なくなり、バスやタクシーに乗る機会が多くなる。富田林市内において車いすがそのまま乗車できるタクシーが増えてきてはいるが、私のような大きい電動車いすを利用する方はバスやタクシーに乗れるのか、対応いただけるのかという不安を抱えている。

松永委員 富田林市には車でしか利用できないお店や事業所がある。お客様や従業

員の立場から見ると、その事業所やお店へアクセスする交通手段があれば助かるのではないかと考える。

南野委員 先ほどの説明にあった「市民の理解醸成」や「利用促進」という点について、私なりに考えていた。彼方上地区では実証運行をすることになり、時刻表やチラシを作成し、地域の皆様に配布しているが、興味のない人には理解いただけていないのではないかと考える。そこで、防災無線やパトロール車両等を利用して実証運行を周知することが有効でないかと考える。

また、資料のスケジュールのとおり地域公共交通計画を策定し、令和5年度からどのように交通環境が変わっていくのかということについて、市民の方にしっかりと伝わるような計画にしなければならないと考える。

柳原議長 参考資料2にあるとおり、地域、事業者、行政がいかに連携するかがということが課題である。また、具体的に何をするのか、それをするための課題は何かということについて、検討することも重要な課題となる。市民の皆さまが公共交通を利用しなければ公共交通のサービス水準が下がり、さらに皆様が自動車を利用するようになるという悪循環に陥る可能性がある。

中村委員 PTAの立場から申し上げますと、小さい子どもを連れていらっしゃる方は買い物などの際、車が便利な場面が多いと考える。また、子どもが塾へ行く際にも公共交通機関ではなく車で送迎されている方が多いと考える。私の周辺でも車を利用している方が多いという印象である。

また、金剛地区にお住まいで富田林中学にバスで通学される方は中央センター前で乗り換える必要がある。そのため、特に朝の時間帯について金剛駅方面から富田林駅方面へ直通の交通手段が欲しいという意見を聞いたことがある。

柳原議長 車を賢く使うことが重要であり、車が便利な場面では使っていただくことも問題ないと考える。しかし公共交通を維持することもまた重要であり、その理解醸成をはかる必要がある。

また、富田林中学への通学の交通手段がないという意見はリアルなご指摘である。富田林市内の通学状況等についても調査のうえ、通学者の交通手段を確保するための方策を今後検討いただきたい。

松田会長 本計画の策定にあたっては市民に分かりやすい計画とする必要がある。そのため、富田林の特性をしっかりと本計画に盛り込み、通学者の意見等も含め、実際に生活している方にとって身近な計画としなければならないと考える。その点を踏まえて、今後計画の策定を進めていただきたいと考える。

柳原議長 計画とは関係ないが参考資料2の赤字が見にくいのではないかと考える。特に弱視の方や高齢者が見た場合、朱色が読みにくいと考えられる

ので今後は見やすい資料作成を心掛けていただければと考える。

(3) 彼方上地区地域公共交通の実証運行について

南野委員 私は嬉地区に住んでおり、彼方上地区地域公共交通の運行に大変興味がある。嬉地区の状況を見れば、多くの方は買い物の際に河内長野方面へ行っていると考え。その点を考慮して運行ルートに意見する場合、資料4にある運行ルートでは、河内長野方面へ出かけるには時間や運賃がかかるため、利用しにくいのではないかと考える。本数は限定的でも構わないが、河内長野経由で汐ノ宮駅へ行くというルートも検討いただければと思う。ルートの見直しの予定はあるか。

三星委員 彼方上地区で行われてきたこれまでのワークショップ等でこのような議論をしてきたのではないか。

柳原議長 ワークショップではそのような議論もしており、河内長野方面へのルートも検討していた。本資料のように落ち着いた経緯について事務局から説明をお願いする。

事務局 嬉地区にお住まいの方が河内長野方面を利用されているというのは存じている。今後、本格運行へ移行する際には河内長野方面へのルートを実現するということを目指し、彼方上7町会まちづくり協議会では検討を続けていると同っている。運行ルート検討に際しては河内長野駅前の停留所位置などに関して調整のため時間が必要になる。彼方上7町会まちづくり協議会では、本格運行への気運を高めていくことを第一目標とし、今回の実証運行を行うこととなった。運行ルート検討の過程では汐ノ宮駅との調整がスムーズにできたため、本ルートで運行する運びとなった。河内長野方面へのルートの検討については、彼方上7町会まちづくり協議会で今後議論いただく予定である。

南野委員 各停留所の位置には立て看板は立てられるのか。またその看板の裏には時刻表を貼っていただくことはできるのか。

事務局 停留所には標識柱を置く予定である。標識柱は近鉄バス様、南海バス様のご厚意によりお借りできた。

三星委員 実証運行の車両は車いすでも利用可能か。

事務局 可能である。

三星委員 個人的に本実証運行へ見学に行く予定であるが、委員の皆様はどうされるか。

事務局 今後調整させていただき、委員の皆様にご連絡させていただく。

柳原議長 皆様が運行状況を見られる機会を設けられればと思う。第一交通様から

意見はあるか。

芝辻委員

本実証運行では安全運行を第一に従事させていただく。どこの地域であったとしても、交通不便地域を作ってはならないと考える。その点について我々が皆様のお役に立つのではないかと考える。

また、防犯面での役割をさせていただければと考える。河内長野市では車両の側面にひたたくり防止や詐欺防止のラベルを付けている。交通面だけでなく、何かしら住民の方のお役に立ちたいと考える。

免許返納を考えられている方も多いと思うが、車がなくては困るという方も多いのではないかと考える。しかし、何かあってからでは遅いので、免許返納を考えておられる方のお役に立てるよう努めたい。大阪狭山市では大きな事故があったが、富田林市においても同様に市民に関わる問題である。

今後ワークショップの開催を検討する際には、使っている方ではなく、5～10年後を見据えて公共交通を使われていない方のワークショップを開いていただきたい。「なぜ使わないのか」ということについてヒントをいただき、我々ができるサービスがあれば展開していきたいと考える。タクシー業界ではコロナ禍の影響を大きく受けている。しかし、地域の方々に利用いただき、守っていただきながら回復してきた。市民への周知と理解が重要であり、公共交通を使わない方の移動の選択肢を増やすことができると考える。

彼方上地区の乗合実証運行では、成功に導けるよう、儲けを度外視して関与させていただき覚悟である。よろしく願います。

柳原議長

このような事業者様が地域におられることは心強い。普段公共交通を利用されない無関心な方に対して少しでも公共交通に対する理解を深めていただき、その方々の意識や態度に変化を与えられるような策を検討していただきたい。

また、市民目線で今後の交通政策を検討することが重要であるが、その一方で交通事業者目線から同様に検討することが重要と考える。コロナ禍により交通事業者様皆様も大変厳しい状況にあると認識している。そのため、地域の皆様がこのような状況を深く周知・理解し、今後の検討を進めていただければと考える。

3. その他
事務局

次回交通会議は12月21日（水）午後2時から、場所は富田林市役所内会議室を予定している。次々回交通会議は令和5年1月18日（水）午後2時から、場所は富田林市役所会議室を予定している。準備ができ次第ご案内をお送りさせていただく。

以上